

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホーム そよ風(東)		
所在地	岐阜県可児市矢戸68番		
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2193100050-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2193100050-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地から少し離れた田園が広がる静かな環境の中にあります。隣接して小規模特養と小規模多機能の2施設があります。3施設合同で夏祭りを開催するなどして、職員・利用者様同士の交流があり、相互に協力し合っています。地元の自治会とは、防災協定を締結し、非常時には、相互に支援し合う体制を取り入れることが出来ました。また母体が医療機関である為、利用者様の体調に異変を感じたり、急変時には、素早い連携を取り、適切な処置を受けることが出来ます。その中で、私達は利用者様が住み慣れた地域の中で、穏やかにほほえみのある暮らしが出来るように、日々、より良いケアが出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所向かいの丘陵地に団地があり、定住した人々も高齢化が進み、「老い」を共に考える拠点となっている。利用者は、この地に馴染み、日々関わりながら、持っている力を発揮し、生き活きとした暮らしを送っている。職員は、利用者、家族に「大丈夫ですよ。安心して下さいね」と、常に声をかけている。その配慮が、強い信頼関係につながっている。職員間の、チームワークも良く、利用者が培ってきた価値観や思いに寄り添い、笑みが溢れる、穏やかな生き方を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(東)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい位置に掲示して、ケア会議などで、職員がその理念が理解できるように説明している。ケアプランの見直し・作成時などに、利用者様の視点に立ったケアがなされているか、常に確認するようにしている。	管理者と職員は、理念の意義を踏まえたサービスを理解し、実践をしている。理念は、毎朝掲示物で確認し、会議の中で、振り返っている。利用者に寄り添い、思いに気づき、その人らしい暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会と、防災協定を締結して、非常時には相互に支え合う関係として位置付けている。また、近隣の小学校からの福祉体験の受け入れや、地元の神社の祭礼時には子供みこしが訪問してくれたりしている。また、施設の夏祭りや、秋祭りなどにも地域の人々の訪問がある。	自治会の一員として、廃品回収に参加している。事業所の祭りには、子ども太鼓やボランティアが訪れ、地元の祭りでは、子ども神輿が回ってくる。福祉体験の小学生に、スイートポテトをふるまっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の夏祭りや・秋祭りには、自治会を通じて地域の人々にお知らせして頂くなどして、地域の人々と交流する機会を持てるように努めている。また、近隣の小学校からは、毎年、ヒマワリなどの花を贈って頂くなど、利用者様との交流がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回、隣接の小規模多機能と合同で運営推進会議を開催している。活動報告を基に話し合っている。	会議では、サービスの実情や活動状況を報告している。地域防災訓練の実施結果や、住民と協力しての避難場所への移動など、その内容を検証している。他にも多様な課題を取り上げ、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者・地域包括職員には、運営推進会議に、毎回出席して頂き、施設の取り組みを報告している。また、活動風景の入ったそよ風だよりを基に、利用者様の姿をお伝えすることもある。必要に応じて、意見や助言を頂いている。	担当者へは、運営推進会議の機会に、運営の実情を報告している。また、事業所発行のほほえみ便りを行政に届け、電話でも連絡を取り合っている。市の安心介護パートナーや地域包括支援センター職員とも、協力を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年次計画の中で、ケア会議において身体拘束について研修し、職員が正しく理解できるように努めている。安全面に配慮しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの取り組みを、日々確認をしている。ベッドからの転落防止柵については、限定的なものとし、安全な代替策を工夫している。やむを得ない場合は、家族と話し合って対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年次計画の中で、ケア会議において、マニュアルを使用して高齢者虐待について学んでいる。職員は利用者様の心身の状況・ケアの状況に対し常に注意を払うようにしている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	年次計画の中で、ケア会議において、マニュアルを使用して権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、利用者・家族に契約内容や、ケアに関する事業所の取り組みや理念をわかりやすく説明し、理解・納得して頂くよう努めている。改定の際には、改定内容を事前に十分に説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の合同意見交流会を、年に一度開催しており、終末期の看取りについてのご家族の不安や思いなどもお聞きした。職員同士情報を常に共有し、ご家族からの意見や要望が気軽に職員に伝えられる雰囲気づくりに努めている。	家族の面会時に意見を聴いたり、また、家族合同の意見交流の場がある。個別の写真入り便りも好評である。終末期のあり方や日頃不安に思っていることなどを語ってもらい、それらを、職員間で検討し、運営に反映させている。	さらに、家族とは、ゆっくりと話し合う場を多く提供し、気楽に意見交換をし、深い信頼関係を築いていけるよう期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や日常の勤務の中で、職員が気になる事や、意見・要望があれば代表者や管理者が個別に話し合う機会を設けている。職員の提案により作品掲示の為の壁にリールが取り付けられている。	職員の意見や提案は、ケア会議の中で、取り上げていている。また、個別面談の機会も設けている。安全な入浴支援や展示物の取り付け、職員の資格や能力を高める提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はケア会議にも参加し、今まで培ってきた施設運営を反映できるように現場に顔を出したり、情報収集として職員に個別に対応できるよう努めている。また、キャリアアップのための研修参加を促すなど、職員に働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は各自、勤務時間内に、法人内外の研修に参加する機会を設けられている。職員はお互いにスキルアップ出来るように、ケア会議で研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修を活用して、経験や役職に応じた事例検討・技術・法令などを勉強する機会を持ち、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が新しい生活に早く馴染めるように、関連機関などから情報収集するとともに、見学时や、事前面談などでも、本人の言葉に出せない思いも引き出せるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学时には、施設内の雰囲気を感じて頂きながら、本人・ご家族の不安なことなどを率直に話して頂けるようゆっくりお聞きすることを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、利用者様・ご家族の思いを取り入れた短期ケアプランを作成導入して、新しい生活に安心・納得して生活して頂けるよう段階的な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所仕事・洗濯物片付けなど利用者様に出来ることは役割分担をして手伝って頂いている。利用者様から、野菜作り・季節の行事のことなど教えて頂いたり良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、家族会・運営推進会議への参加や、かかりつけ医への受診・理美容院への付き添いをお願いする事もある。面会時には居室などでゆっくりお話して頂けるよう配慮したり、家族会として外出などの外出支援をお願いしたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚・知人の方の訪問の受け入れや、隣接の施設に配偶者がおられる利用者様もおられ、相互に面会に出掛けるなど馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。また、職員と共に、買い物以外にも、生家近辺・菩提寺・パチンコなど馴染みの場所に同行している。	知人の面会があり、ゆっくり過ごしてもらい、次回の訪問につなげている。併設の事業所でも、馴染みの人と出会う機会をつくり、関係を継続している。家族の協力を得て、美容院や墓参りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性について、職員同士申し送りや、記録などで情報を共有している。食事や、レク、くつろぎの時間など、利用者様一人ひとりが楽しく過ごせるよう職員と一緒に会話の輪に入るなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じてご本人・ご家族の経過をフォローできるよう関係者と連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、散歩・入浴時・就寝前などに、一人ひとりとゆっくり会話をする機会を設け、利用者様の思いを把握するように努めている。困難な場合には、表情・しぐさなどから思いを汲み取り、利用者本位のケアに努めている。	日々の会話の中で、利用者の思いや意向を把握している。花が好きな人や畑仕事の得意な人など、様々である。把握が困難な人は、表情から汲み取ったり、家族からその人柄を聞き、希望に添えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前利用施設・担当ケアマネジャーからの情報収集や、利用者様・ご家族との会話の中で利用者様のこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、介護記録・排泄チェック表・生活リズムチェック表等の記録を通して、利用者様一人ひとりの一日の過ごし方・心身状態を全職員が把握していくよう努めている。利用者様の出来る事にも視点を向けたケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や日常生活の中で、利用者様・ご家族の思いをお聞きして、担当職員がケアプランを作成している。利用者様の心身状態に合わせて、医療関係者の意見も取り入れ、ケア会議で、随時職員同士でケアプランを見直し検討している	本人・家族の意向を確認してから、計画の原案を作成している。加えて、サービス担当者会議でのアセスメントを踏まえ、本人本位の、意向に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り表・連絡ノートなどを活用して、日々の様子やケアでの気づきなどの情報を職員が共有し、ケアの工夫や実践につなげ、ケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の状況に応じて、職員が個別の必要物品の購入をしたり、水分摂取・食事量の少ない利用者様には、個別に摂取しやすい食器や、ミキサー食などを提供するなど柔軟な対応にしている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館祭りや、市民文化会館での作品展覧会に個別に出掛けるなど、地域資源を活用して、利用者様が豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の希望されるかかりつけ医に受診して頂いている。個々のかかりつけ医と連携を取り、必要な医療が受けられるよう支援している。また、定期的に月に2回訪問診療、週に1回訪問看護があり、医療との連携に努めている。	利用者個々に、これまでのかかりつけ医での受診を継続し、職員が同行をしている。希望者は、協力医による訪問診療を受けている。訪問看護の制度も活用し、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師の訪問などがあり、職員は利用者様の心身状態の変化などを早い段階で相談することが出来、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けることができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人全体として、入院設備のある病院とは日頃より相談員との関係作りをしている。入退院時にはご家族等の了承を得て、こまめな連絡が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時には、重度化や終末期に向けたご家族の思いをお聞きして、施設で出来ることを説明し納得して頂いている。重度化した場合は、家族や医療関係者と共に施設で出来ることを十分に話し合い支援している。	契約時に、重度化や終末期の方針を家族に説明している。事業所で出来る限度を、終末直前までとし、医療機関または特別養護老人ホームへつながるよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命救急講習に参加し、ケア会議において緊急時の救命救急方法などを定期的に勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を、自主訓練と消防署指導で年2回実施している。隣接した3施設が、合同で非常時の緊急連絡体制、救助体制、避難経路をマニュアル化している。防災協定により、非常時の地域の方たちとの協力体制についても取り入れられている。	災害訓練は、自主訓練を含め、年に2回、住民参加の訓練を実施している。自治会と防災協定を締結し、協力体制を築いている。マニュアルも整え、備蓄を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修などを通して、職員は介護保険の理念・プライバシー保護について勉強している。常に、利用者様の気持ちに寄り添い、誇りやプライバシーを損ねないようなさりげない言葉かけや対応に努めている。	一人ひとりの状態に合わせ、表情にも気配りしながら、誇りを損ねない言葉かけを行っている。その人の生活歴や人格に配慮をし、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、言葉・表情・しぐさなどからも利用者様の思いや希望に気づくことが出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状態に応じて、さりげない声掛けを行いながら、一人ひとりのペースを大切にし、無理のないその人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に協力して頂き、馴染みの理美容院に出掛けて頂いたり、その人らしい季節に合わせたおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。また、外出や行事の際には、女性利用者様にはお化粧を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材カット・盛り付け・配膳・片付けなど、一人ひとりが出来ることを職員と共に手伝って下さる。季節の行事や、お誕生日などには、赤飯、手作りケーキや、おやつなどを、利用者様と共に楽しみながら作って頂いている。	利用者は、職員と一緒に、食事の準備、配膳や片付けなどを手伝っている。職員は、各テーブルに着き、利用者と同じものを食べ、全員が食べ終わるまで、席を立たないようにして、楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量・体重の増減など一人ひとりの状態に常に注意している。水分摂取量の少ない利用者様には、お茶を好みの熱さや、好みの味に配慮するなどして摂取量増加に努めている。また、夜間も適宜水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。自立度に応じて、義歯の脱着・洗浄・口腔内の衛生管理を行っている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。声掛けや見守りにてトイレでの排泄を支援している。夜間も一人ひとりの心身状態に配慮しながらトイレ誘導・声掛け・見守りを行い、排泄の失敗を減らし自立を促している。	食事前、外出前や入浴前など、事前に声をかけ、トイレへ誘導している。夜間も、排泄リズムに合わせ、さりげなくトイレでの排泄を促している。その結果、尿パッドの使用量が少なくなり、自立につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や、体を使うレクなどに参加して頂くよう運動への働きかけをしている。スムーズな排便のリズムが出来るよう、水分補給や、牛乳の提供などしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態に配慮しながら、一人ひとりのお好みの順序・湯温で入浴して頂けるよう配慮している。入浴時には1対1の介助を行い、ゆったりとくつろいで頂けるよう支援している。入浴出来ないときは足浴などの個々に沿った支援をしている。	入浴日の名簿を、目線に掲示しており、本人が認識できている。檜風呂と介護負担の少ないベンチ浴があり、好みに応じている。季節に応じて、菖蒲湯や柚子湯等を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるよう、日中は出来る限り活動的に過ごして頂くよう支援している。一人ひとりの心身状態に応じて、日向ぼっこを楽しまれたり、入浴後に休息されたり個々に対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容・説明については、職員が確認しやすいようファイルして情報の共有をしている。薬の変更・追加・臨時薬などについては、その都度記録し申し送りしている。配薬の担当者が服用まで毎回確認し記録にチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事・歌レク・裁縫・野菜作りなど、一人ひとりの力に合わせた役割・楽しみごとに参加して頂いている。また、行事や誕生会に、ビールや、梅酒など提供することで、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調に配慮しながら、スーパーでの買い物などに個々に同行して頂いている。ご家族の協力を得て、バイク形式の外食に全員で出掛けたり、初詣、花見、モーニング、パチンコ、生家近辺など個々の希望に応じた外出支援をしている。	避難場所でもある近くの公民館までを、散歩コースに入れている。買物、外食や喫茶店のモーニングなど、馴染みの店へ出かけている。希望者には、個別の外出にも応じている。	地域や家族の協力を得ながら、さらに、個別の外出支援の充実を検討中であるので、その具体化に期待したい。



岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて支援している。個別外出時には、ソフトクリームや、ノンアルコールビールなども購入されたりしている。個人の預り金については、ご家族に月に一回は使途を説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中はがきや年賀状など、季節のお便りを自筆の絵手紙で出して頂くなどの支援をしている。また、遠方の知人からの電話などを取り次ぐなどの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には、季節を感じて頂けるよう、カレンダーの飾りや、絵手紙、ちぎり絵などの作品を利用者様と共に作成し展示している。日中は、ソファや、食席など思い思いの場所でゆったりとくつろいで過ごして頂いている。	玄関には、椅子と、安全に立位のできる設備を施している。畳のコーナーには明るい日差しが入り、くつろげる。季節の置きものや菊の花を飾り、季節感にあふれ、居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で、ソファや食席で談笑されたり、新聞や広告を読まれたり、好きな場所に移動して日向ぼっこを楽しまれたり、その人に合った居場所を作れるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居室で居心地良く過ごせるように、ご家族との写真を飾られたり、仏壇を置かれていたり、使い慣れた家具や椅子などを持ち込まれたりして、ご家族と共に工夫している。	入居時に持参した、椅子や机を、家族と相談しながら配置をしている。手づくりの作品や誕生日のプレゼント、家族の写真等を、思い思いに飾り、その人らしい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身状態に常に気を配り、不安や混乱が生じない環境が保たれるよう見守り、利用者様の動線に転倒などのリスクがないか常に配慮するよう努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホームそよ風(西)		
所在地	岐阜県可児市矢戸68番		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成26年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価票(西)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を、職員誰もがみれる様に掲示し、日々のサービスに活かす為、会議の中で話し合いサービスを図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の福祉体験、中学校の職場体験を受け入れ、夏祭り、秋祭りを催し地域住民の方と積極的に交流を図り、公民館でのサークル活動の情報を頂き作品見学など行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校の花いっぱい運動、地域の神社の春祭りを通じて、子供達や地域の方に高齢者や認知症の方達との触れ合いの場を提供し理解を深めて頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回小規模多機能と合同で、運営推進会議を開催している。公民館の展示物の見学や、作品作りの誘いなど助言を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者、地域包括職員には、運営推進会議に毎回参加して頂き、施設の取り組みを報告している。年2回そよ風だより(写真付)にて利用者様の状況を伝え必要に応じて助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ケア会議などで研修し日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り話し合っている。見守りをしていく中で、身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修ケア会議において、高齢者虐待防止について常に自覚を持つため発表を行っている。心身の状況、ケアの状況について、職員は常に注意している。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	ホーム内研修で職員は勉強し理解をしている。成年後見制度については、必要と思われる人への活用を図っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ゆっくりと分かりやすく具体例を挙げ理解を図っている。改定時には、改定内容を説明し同意を得る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置し、意見を頂いている。また面会時や家族会で近況を報告し、意見や要望を言って頂ける関係を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議に運営者も参加しており職員の意見に耳を傾け、時にはアドバイスを頂いている。利用者様と外でくつろげるベンチの購入や、椅子の足底に古いテニスボールを活用しているのは、職員の意見や提案が実現したものである。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、今迄培ってきた施設運営を反映出来る様、現場に顔を出したり情報収集を行い職員に、個別に聴き対応することを常としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、法人内外の研修に参加する機会が与えられている。研修報告をケア会議にて発表することで、職員全員が学ぶ事が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人や同業者との交流を図っている。合同研修を行い、サービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の要望、困っている事を傾聴し理解してサービス提供を行う。日々の会話、安心感を与え、より信頼関係を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、本人や家族様の思い、観察、会話などから、必要性に高い物を見極め他のサービス内容も含め、最善のサービス提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを確認し、必要に応じて支援、提案の相談を行い信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、四季折々の行事習わしなど、勉強させて頂く事が多く、共に思いを共有し合い、支えあう関係作りが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、御家族様との交流や会話を大切にし、利用者様への支援を共に行って頂ける様関係を築くことに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	通い慣れた美容院へ行かれたり、自宅に戻られた際ご家族、親戚の方と温泉に行かれるなど、住み慣れた場所との関係を途切れさせない様になっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション等気の合った方同士職員も一緒に入り孤立させない様多くの会話を持つようにしている。また職員が役割分担などし、お手伝いをお願いし、交流の場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて契約終了後、お見舞いなど必要に応じて行い、本人と御家族様に経過をフォロー出来る様に関係者と連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者様との会話や希望、表情などから確認し、意思疎通が困難な方は、家族様より情報を提供して頂いたり、表情やしぐさにて汲み取る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報を聞き、本人の得意だった料理、裁縫、習字等、レクレーションなど通じて、有する力を発揮しながら自分らしく生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のリズムを理解し、行動や、動作から出来る事への支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の気持ちを聞き、家族の思いや意見を反映するようにして、会議で意見交換を行い、介護経画の作成に努め、利用者様の状態により、その後のケアプランの見直し、検討している。。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し、食事、排泄等の身体的状況、本人の言葉や職員のきずき等を記載し職員間で共有して、ケアプラン見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族様の状況に応じて、通院や送迎が必要な方の支援や、個別の必要物品の購入など柔軟な支援をしている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設のイベント時、地域のボランティアグループを、紹介して頂いたり、運営推進会議の際、催し物の日程や見どころ等の情報提供を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医のある方は、かかりつけ医と協力して通院の介助を行ったり、歯科訪問診療に来ていただいている。法人の協力医とも連携体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により、日頃の健康管理や、医療面の相談、助言により対応を行っている。状態に変化があれば、訪問看護師に報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より、入院設備のある病院とは法人全体として、関係を取り合っており、入院された時は、家族の了承を得て、連携しあう体制ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会の席で、終末期の在り方について説明及び、質疑応答を行っており、家族様からの質問にその都度対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修において、必要な訓練を定期的に行っている。また職員は救命救急も交代的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、消防署の協力を得て、通報、誘導、消火器の使い方等の訓練並びに避難経路の確認を行っている。防火自主点検を作成し、毎日チェックを行っている。災害時(春里公民館)まで散歩を兼ねて、利用者様と共に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修を行いプライバシー保護について勉強しており、利用者様の気持ちに寄り添い、プライバシーを損なわない言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望、要望にできるだけ近付け対応できるよう努めている。又傾聴し職員に希望を言い易い環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、利用者様と個々に向き合い話を傾聴する場を作り支援している。自室に戻られ新聞やテレビを見られたり静臥されるなどを、見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の着替えは、御自分で洋服を決めて頂き、お化粧をされるなどおしゃれを楽しんで頂ける様支援をしている。希望のない方は、職員と一緒に考えて、本人の希望に沿った支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、味付、盛付等、職員と一緒に準備や後片付けを行い、食事を楽しんで頂いている。畑で収穫し野菜の調理方法を一緒に考える事もある。又誕生日には本人の好きな物を作りおやつとして提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調や、摂取量を把握し食べやすい大きさにカットしたり、軟食料を調節したり、其の時々希望に合わせて行っている。食後の水分摂取は、一人一人に声掛けし、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、自立度に応じて、見守り介助を行い清潔保持に努めている。		



岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを知るよう努めている。時間的声掛け誘導し、トイレで排泄出来る様見守り支援している。夜間の見守り時にも声掛けにてトイレ誘導を行い失敗を減らし自立支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のラジオ体操、リハビリ体操、散歩などに声掛けし参加して頂いている。起床時の水分摂取(牛乳、お茶、ポカリ)及び食物繊維を多く含んだ食品の摂取、おやつ時間も含めこまめに水分摂取を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を見ながら、入浴の順番と時間を配慮し一対一の介助で、ゆっくりと入浴して頂ける様支援している。一般浴に入れない方は、ベンチ浴に入って、ゆっくりと温まって頂ける様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に参加して頂ける様声掛けして、昼夜逆転せず、夜間良眠出来る様努めている。不眠の方は、職員が寄り添い話を聞き、休息を取って頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、職員が内容を把握出来る様にしている。職員が声掛けし口に入れ服薬を確認している。薬の追加、臨時薬については、その都度詳細を記録し医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の情報や、日々の観察を通じ力を発揮して頂ける様お手伝いをお願いしている。喫茶店、外食、外出など計画を立て、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、外食などを支援している。個別で、本人の希望(例としてモーニング、ドライブ)等、又家族会にて一緒に外出なども支援している。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じて、安心や満足に向けて、所持金を持って頂ける様家族と相談し、支援している。事業所が管理している方も、外出時のお金は、本人にお支払い頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話への対応や暑中ハガキ、年賀状等親族宛へのお便りの郵送などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、利用者様に四季の作品を、折り紙にし掲示、鑑賞している。食事を作る音や匂い等、家族的な雰囲気を味わってもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、ダイニングテーブル、椅子等配置に配慮し、くつろげる工夫をしている。畳のスペースがあり日向ぼっこ、おしゃべり等しながら利用者同士くつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのおものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真、思い出の品等家族様と相談し、持ち込まれている。危険には注意しながら、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族様や個人の持ち物の配置など安全な環境で生活出来る様に配慮し、自室が解らない方には、自室入口に花(ペーパーフラワー)で目印を付けるなどし、又歩行時危険回避のため物を置かない様にしている。		